

笛吹市探訪

『新しく指定した文化財』

― 国分寺本堂等 ―

一宮町国分にある国分寺の本堂・薬師堂・鐘楼門・庫裏と附指定（注1）資料（棟札・鰐口・小屋貫・板戸の絵画）を市文化財に指定しましたので紹介します。

国分寺とは

国分寺は臨済宗妙心寺派（注2）の寺院で、奈良時代、聖武天皇の詔（注3）により甲斐国に建立された古代国分寺を前身としています。

境内全域が国指定史跡国分寺跡にありましたが、史跡の保存のため、今回指定した本堂等を旧境内地より新境内地（金川の森公園隣接地）に移築しました。

市文化財に指定された建物群

国分寺のように江戸時代中頃に建てられた本堂・薬師堂・鐘楼門・庫裏の4棟がそろって残る例は少なく、とても貴重であり、未永く後世に伝えていくために市文化財に指定しました。

寺の中心的な建物である本堂は四方向に傾斜する屋根を持つ寄棟造りで、元禄年間（1688～1703）に建てられました。

本堂創建時（元禄年間）に絵画が描かれた板戸が6枚あり、附指定しました。

薬師如来を本尊とするお堂である薬師堂も寄棟造りで、明暦2（1656）年に建てられました。薬師堂には「明暦2年」と墨で書かれた小屋貫（注4）と万治2（1659）年の銘が刻まれた鰐口（注5）が残されています。これらは薬師堂の建築年代を特定できる貴重な資料です。

2階に吊つてある鐘を特徴とする鐘楼門は入母屋造り（注6）で、寛延3（1750）年頃に建てら



国分寺薬師堂（桁行5.7m、梁間5.4m、高さ8.0m）



国分寺鐘楼門（手前、桁行3.3m・梁間3.0m、高さ8.8m）・本堂（左奥、桁行18.3m・梁間11.3m・高さ10.8m）・庫裏（右奥、桁行20.8m・梁間9.4m・高さ9.5m）

れました。寺で僧が生活する建物である庫裏も同様に入母屋造りで、大黒柱に打ちつけられていた長さが49cmの棟札（注7）に残る墨書により、嘉永5（1852）年に建てられたことが判明しました。

貴重な文化財を散策するため

文化財課では国分寺や国分寺周辺にある経塚古墳（注8）、甲斐国分寺跡・甲斐国分尼寺跡（注9）等を紹介したスポットガイド・エリアマップを作成し、各支所や図

書館で配布しています。

スポットガイド等を手に取り、国分寺周辺をぜひ散策してみてください。

注1 附指定 建造物等の年代が特定できる資料を指定する手段。

注2 臨済宗妙心寺派 鎌倉時代に中国より伝わった禅宗の一派。

注3 聖武天皇の詔 天平13（741）年に出された国ごとに国分寺・尼寺を造る命令。

注4 小屋貫 壁の骨組の材料。
注5 鰐口 お堂の正面軒先に吊るす金属性の丸い鼓で仏具のひとつ。

注6 入母屋造り 上半分が切妻造り（二方向に傾斜する屋根）、下半分が寄棟造りの建物。

注7 棟札 新築・修復の記念に、大黒柱等に取り付ける札。

注8 経塚古墳 金川の森公園にある県指定史跡。直径12・5m、高さ2・2mの八角形墳。

注9 甲斐国分尼寺跡 国指定史跡。金堂跡・講堂跡の礎石が残っています。